2024（令和６）年８月 14 日

真鶴町教育委員会
教育長　纐　纈　仁　志　様

真鶴町学校建設準備委員会
委員長　瀧　本　朝　光

付帯意見書

真鶴町学校建設準備委員会では、現在検討を進めている施設一体型小中一貫教育校の建設候補地を、現在の真鶴中学校地に建設することが望ましいと結論付け、教育委員会７月定例会に答申し、承認されました。建設候補地を選定するにあたり、各委員からは新校舎建設後の校舎を含む小学校地の跡地利用に対して様々な意見が出され、真鶴町学校建設準備委員会として、跡地利用に関する付帯意見を次のように提言いたします。

まなづる小学校は、真鶴町まちづくり条例及び真鶴町景観計画によると普通住宅地区（甲）に位置付けられており、その理念は「本地区は、真鶴地区と岩地区に形成されてきた漁村集落とその周辺や、斜面地と山に挟まれた住宅地であり、真鶴町の歴史的な『懐かしい町並み』や『静かな背戸』等、『美の基準』が豊かに息づき残る地区である。家々が建ち並ぶことにより形成されてきたものであり、生活の道として形づくられた背戸道は、道端や民家の庭先に咲く草花で彩られている。両手を広げたぐらいの幅は、人の行き来に挨拶を生み、車を拒み安心を与える『人の道』である。港を囲むようにすり鉢状の斜面地に建つ家々は、ひな壇上に佇むその姿自体が美しい。(後略)」とされています。

学校建設準備委員会が真鶴中学校地を建設候補地として選定していく中で、まなづる小学校の跡地利用に対して多くの委員から意見が出されました。「小さな子どもたちが遊んだり、過ごしたりできる。また、町民が集える。そういった公園や広場を。」「小学校の跡地の方がいろいろな利用価値が高い。」「新たな文化交流施設になって、そこに中高生や町民の方々も学びに来られるといい。」「小学校地はとても素晴らしい景観を持っている。学校施設というよりは、町内外から集う人たちの憩いの場として使った方が絶対にいいと思っている。」「この真鶴のアイデンティティ、皆の象徴はやはり小学校の跡地なのではないか。美しい空間・建築をつくるだけでなく、常に子どもと大人の声が聞こえ、交流ができる施設と幼稚園等をつくり、多世代が行き交う営みが日常的にあることが大事だと思う。そして、そこで育った子どもたちが担い手となり、みんなの思いが詰まった場、これからもみんなで創っていく場として生かしてほしい。」などの意見が出されました。

まなづる小学校地は、真鶴町にとって、同心円的に公共施設や自然環境を有効的に活用することが可能な場所であり、その地に宿る町民の想いでもある「美の基準」の理念を、次の世代に承継していく責務があります。真鶴町学校建設準備委員会として、小学校跡地の活用については、町民同士あるいは、町内外から集う人たちとの交流が可能な施設を望みます。現在指定避難所になっていることを考慮すると、防災機能を併設する必要もあります。ひなづる幼稚園を移転する等と併せ、人と人との交流が活性化するようなシンボリックな計画や、「美の基準」がこれからも豊かに息づき残る場所として存続できますよう、提言いたします。